

立教大学ジェンダーフォーラム 2017 年度公開講演会
現場発！LGBT から考える
——多様性のある社会、人権としての性——

講師： 石坂わたる氏（中野区議会議員）、
薬師実芳氏（NPO 法人 ReBit 代表理事）

日時： 2017 年 7 月 8 日（土）13:30～16:30

会場： 立教大学池袋キャンパス 7 号館 7101 教室

2017 年度の公開講演会は、LGBT（セクシュアルマイノリティ）支援の現場で活動をしてこられた、石坂わたる氏（中野区議会議員）と薬師実芳氏（NPO 法人 ReBit 代表理事）に講演いただいた。ゲイであることを公表し、中野区で区議会議員として活動している石坂氏の講演では、自身のセクシュアルマイノリティ当事者としての経験、LGBT の社会運動との関わり、区議会議員としての活動について主に取り上げ、LGBT 当事者が直面している困難な状況、自治体の取組内容、そして今後の政策的展望についてお話いただいた。LGBT の子ども・若者を支援する活動に取り組む薬師実芳氏は、主に NPO の活動内容と、幼年・若年のセクシュアルマイノリティ当事者が抱える問題、そしてその世代に対して必要なセクシュアルマイノリティに関する教育施策や市民活動の現状について講演して下さった。政治と教育という支援の現場で活躍してこられたお二人のお話では、さまざまな具体例と共に LGBT が置かれた現状が提示された。常に聴衆を前に話すことを仕事としているお二人だけあって、参加者が思わず引き込まれる魅力的でわかりやすい講演であった。

休憩をはさんだ後半では、近年注目されているパートナーシップ条例や政策形成の実態について、講演者自身の個人史に関わる質問、さらに、教育現場の現状や展望についての質問に対して、講演者から回答があった。比較的学生の参加者が多かった本講演会では、質疑応答によって内容の理解がさらに深まり、フロアと講師との言葉の往還によってより参加者自身も当事者であることを認識できるような広い視野で問題を考えることができる展開となったように思う。会の最後に薬師氏が、本講演会への参加をぜひ友人との会話や SNS 投稿などさまざまな形で広めてほしいと訴えていたことが印象的である。社会の変化を求める時、参加すること、知ること、伝えること、まさに日々の実践の積み重ねが重要であることを改めて意識させられた瞬間であった。

（立教大学ジェンダーフォーラム事務局・中村雪子）



石坂 わたる 氏



薬師 実芳 氏

